

平成29年8月18日

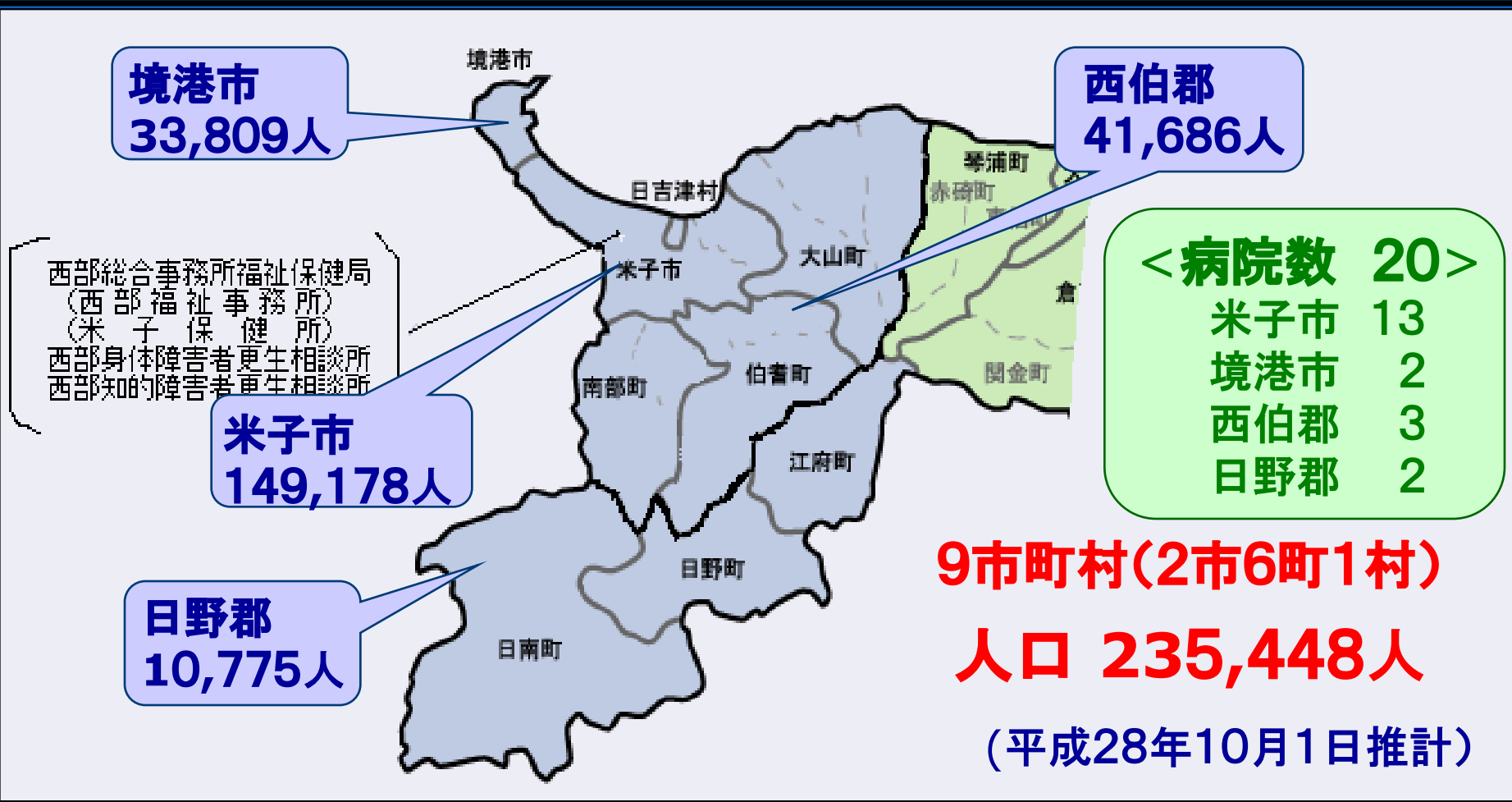


H I V陽性で介護が必要になった方の 在宅療養に向けた取り組みについて ～行政の立場から～

鳥取県西部総合事務所福祉保健局
(鳥取県米子保健所)

大 城 陽 子

鳥取県米子保健所の管内概要



西部面積: 1,208km² (うち日野郡: 599km²) (平成27年)

出生数 2,003人 (米子市1,442、境港市269、西伯郡259、日野郡 33)

死亡数 2,905人 (米子市1,571、境港市438、西伯郡630、日野郡266)

少子高齢化が進んでいます。

県西部の高齢化率 = **30.6%** (平成28年)

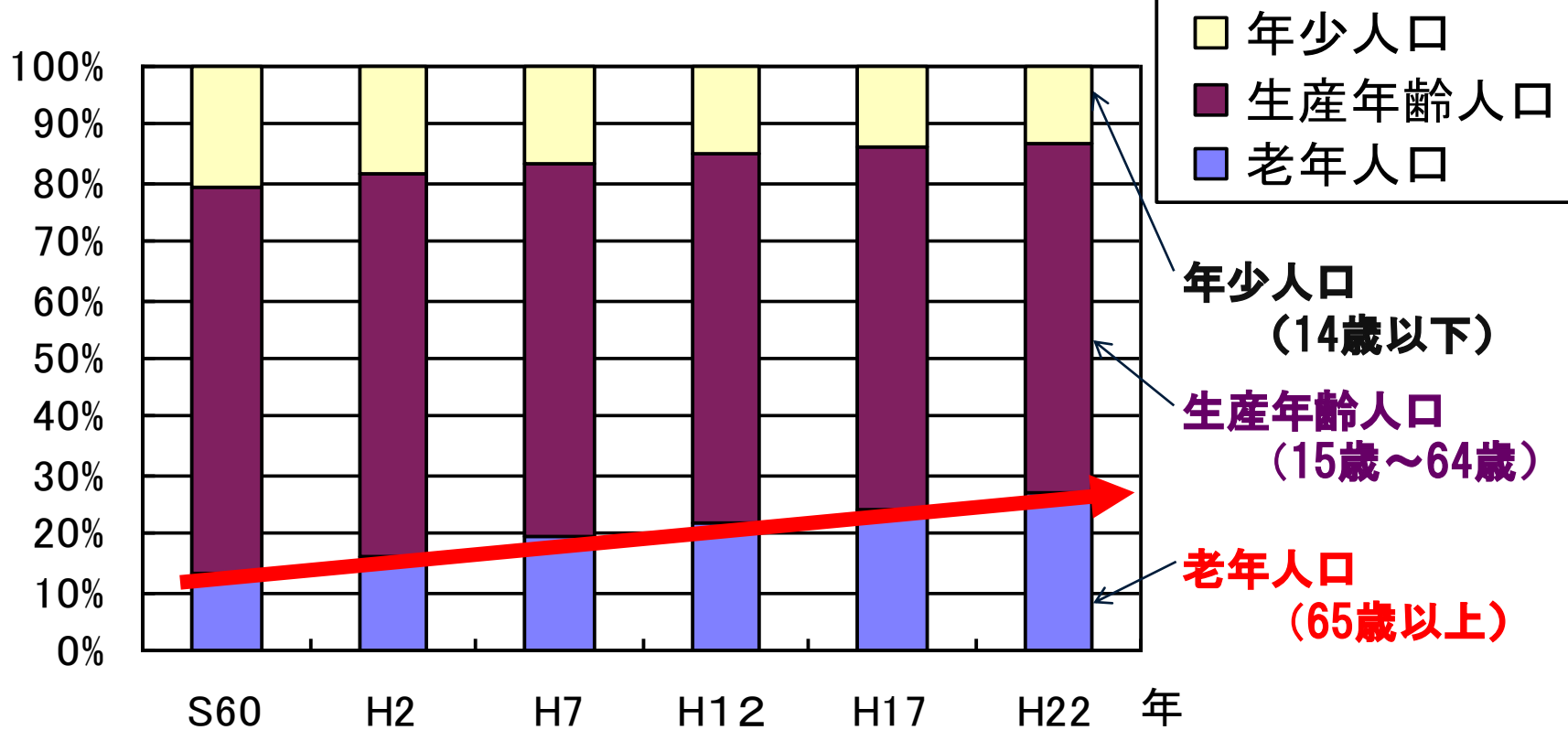
*県平均 30.3%

*全国平均 27.3%

日野郡**48.2%**

西伯郡**36.3%**

・特に郡部が高齢化。



住み慣れた家庭や地域で、医療や看取りを安心して受けられるよう、主に高齢者につき医療福祉の多職種連携を進めています。

在宅療養支援診療所： 西部圏域40カ所

訪問看護ステーション： 西部圏域27カ所

地域包括支援センター15カ所、 **居宅介護支援事業所**67カ所

＊ **西部在宅ケア研究会**（平成11年度～）

＊ **西部医師会在宅医療推進委員会**（平成23～27年度）

＊ **在宅医療連携拠点事業**（平成24～27年度）

＊ **医療介護連携調整実証事業**（平成27年度厚労省モデル事業）

→要介護・要支援の高齢者について「入退院調整ルール」を運用中

障がいのある方の在宅療養支援については…

障がい者相談支援事業所(特定)： 西部圏域23カ所

障がい者居宅介護支援事業所： 西部圏域44カ所

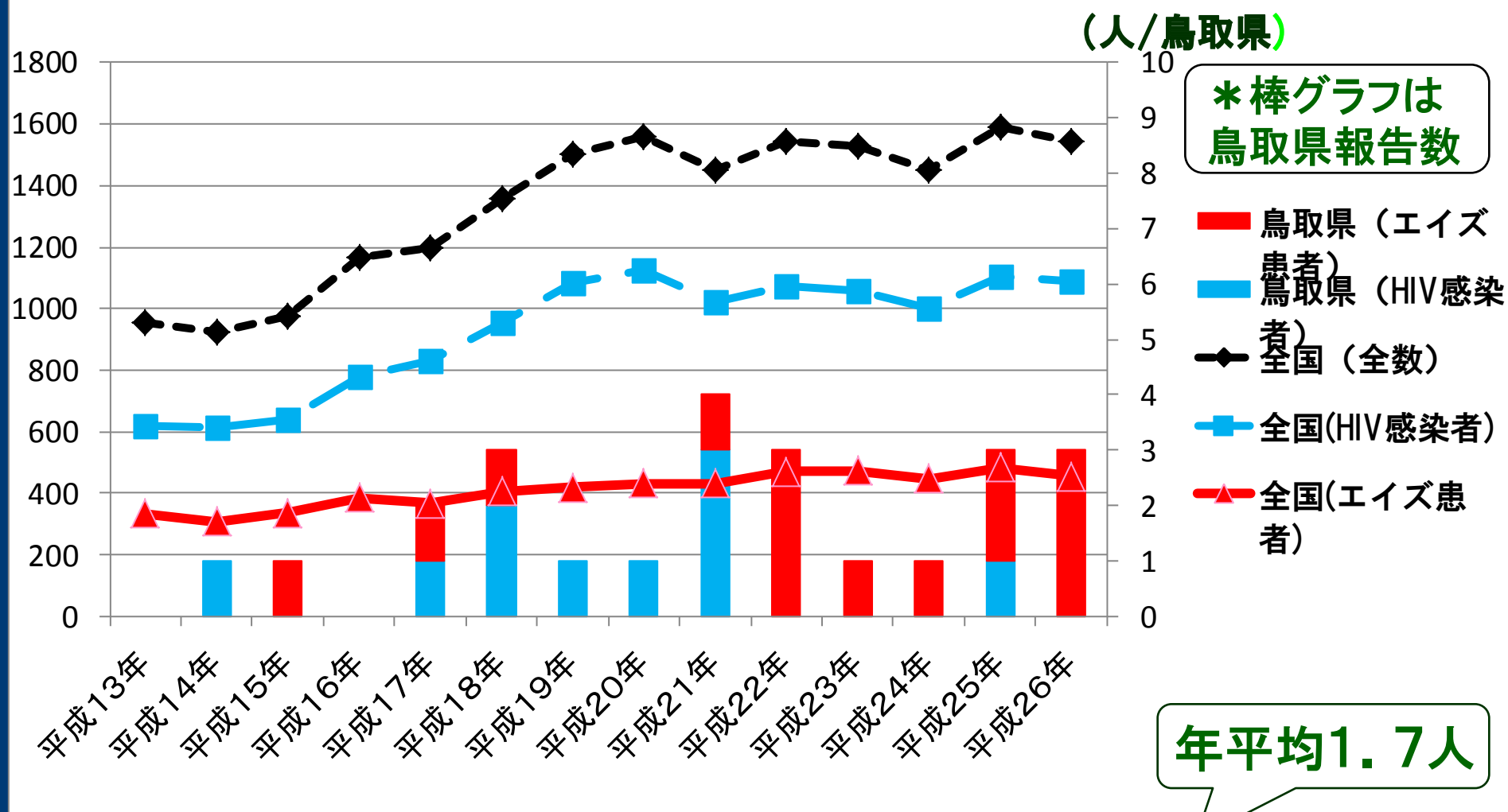
＊ **西部障がい者自立支援協議会**を9市町村が運営しています。

平成28年度手帳所持者：身体障害11,501人、療育2,065人、精神2,603人

県内のAIDS患者・HIV感染者と その診療体制



AIDS患者・HIV感染者数（全国・鳥取県）



鳥取県の報告数は 平成13年から27年で **25人**



鳥取県のエイズ治療体制

国...

エイズ治療研究開発センター

ブロック...

中国四国地方ブロック拠点病院
(広島3病院)

鳥取県

中核拠点病院

鳥大附属病院

拠点病院

県立中央病院

米子医療センター

協力病院

鳥取赤十字
病院

鳥取市立
病院

鳥取医療
センター

県立
厚生病院

山陰労災
病院

HIV陽性で介護が必要な方の 在宅療養に向けた取り組み



HIV / AIDS患者の在宅療養支援研修会

平成27年12月に米子保健所を会場として開催。

- ・ 医師会、訪問看護ステーション、介護支援事業所等に広く呼びかけ
- ・ ケース対応で協力可能性の高い機関には個別に参加を呼びかけ。
- ・ 講演内容：「HIVの基礎知識」、「在宅療養支援やケアにあたっての留意点」「暴露時の対応」など
講師：中国四国ブロック拠点病院(広島大学病院)
HIVコーディネーターナース
- ・ 参加者： **35名**。看護師(病院・診療所・訪問看護ステーション)、**介護士**(訪問介護事業所、施設)、**MSW、PT、OT、臨床検査技師、医師**(病院・診療所)。
- ・ アンケート結果： 全員が参考になったと回答。
「今まで経験がないが、患者との対面時は慌てずに対応したい」
「正しい知識と情報によって安心が得られ、差別がなくなる」
「事例紹介があり、患者との関わり方、支援方法が参考になった。」
等の感想。 →西部医師会報にも開催を報告。

HIV陽性患者の在宅療養 に係る今後の課題

< HIV感染者であっても早く在宅療養に移行でき、 地域であたいまえに生活が送れるためには・・・ >

治療法の進歩により、HIV感染症は不治の病から慢性疾患に変化している。他疾患を伴うことも増えてくる。高齢化への備えも必要。

1 日常診療で通院・訪問診療・入院できる機関が増える

- 急性期病院だけでなく慢性期を担当する病院や診療所も。
- 米子市内だけでなく郡部等の医療機関も。
- 内科だけでなく歯科、眼科、耳鼻科、外科等も。

2 外来でHIV治療が可能な医療機関が増える

- 指定自立支援医療機関(更生医療・免疫疾患)は県内3カ所。

3 医療従事者・介護者がHIVを学ぶ機会が増える

- HIVの基礎知識、感染者の置かれた状況、感染防止の研修機会
- 「感染制御地域支援ネットワーク」の活用
- 管理者への研修の機会をつくる

4 住民もHIVについて知る機会が増える

- HIVの基礎知識、感染者の置かれた状況の理解
- 他の感染症研修（感染性胃腸炎、結核、インフルエンザ等）の機会にあわせて伝える。
- 学校教育との連携（人権教育としてのHIV）

5 感染者・家族と地域の人との交流の機会が増える

- HIVの基礎知識、感染者の置かれた状況の理解
- 感染者・家族の意向に応じたプライバシーの確保



**HIV陽性で介護が必要になっても
在宅での療養生活が安心して送れるよう、
支援のネットワークを広げていきたいと思ひます。**

今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。



ありがとうございました。